



みんなで、学ぶことの意味を問い直しています！

『吉田さんの生き方に学ぶ』～中学1年生～

1925年生まれの吉田一子さんは、厳しい部落差別の現実の中で、教育権が保障されず、文字を学ぶ機会さえ奪われてきました。吉田さんは60歳を過ぎ、部落差別をなくす運動の中で始まった識字学級で学び、文字を取り戻していかれました。

そこには、家族（娘や孫）、根気強く教える先生たちなど周りの支えがありました。でも一番の源は、「名前すら書けない。自分のお金なのに、おろせない…。」、という吉田さん自身の怒りと悔しい思いでした。

何度も何度も練習して、少しずつ文字を取り戻していった時、吉田さんは、「今まで、（社会の）端にいたのが真ん中くらいには行けるようになった」と感じられたそうです。

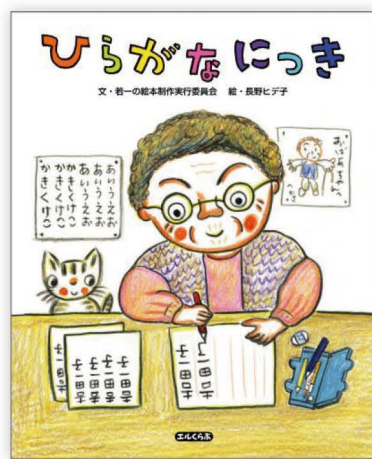
下記は、この学習の生徒たちの感想です。

吉田さんの孫の作文を読んで、文字の読み書きを習っている吉田さんを応援しようというのが伝わってきた。そんな人たちの存在やおかげもあって、より頑張れたんじゃないかな…と思う。

60歳過ぎても勉強しようという強い気持ちがすごい。周りも字の読み書きができない人がいることを受け入れることが大切。

私もみんなを支える存在になりたい。そのためは差別に対して怒りを持つこと。

文字を学ぶための識字学級だけれど、周りから支えられる大切さや、自分の世界が広がり知識が豊かになる、差別に負けてはいけない気持ちなど、生きていくために大切なことを吉田さんは学ばれた。私も文字の大切さだけでなく、学ぶことの大切さがわかった。



▲「ひらがなにつき」
文：若一の絵本製作実行委員会
絵：長野ヒデ子
解放出版社提供



夜間中学校を知っていますか？

1 夜間中学の開設と位置づけ

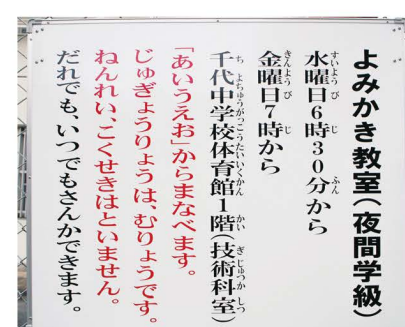
夜間中学校は、1947年、大阪市生野第二中学校「夕間学級」が始まりといわれます。当時は経済的理由で昼間に働き、学校に通えない子どもたち、貧困や差別により学ぶ機会を奪われてきた被差別部落の人々や、在日韓国・朝鮮人の人々等のことが社会問題化していました。こういった子どもたちや人々に「学びの場」をつくらうという教師たちの熱意により夜間中学校が開設されました。

現在、全国で公立夜間中学が31校ありますが、九州にはありません。ボランティア・スタッフによる自主夜間中学、識字学級等が約200か所、開校しています（2017年文部科学省調べ）。

福岡県には現在3つの自主夜間中学校があります。



2 「こんばんは」で始まる、自主夜間中学 福岡『よみかき教室』



福岡県人権啓発情報センター提供

自主夜間中学 福岡「よみかき教室」は、毎週水・金曜日の夜、福岡市立千代中学校体育館1階で開校しています。2018年5月に開設21年を迎え、20代から80代と様々な年代、在日1世、ニューカマー、中国在留日本人孤児など国籍が異なる人々や「不登校の子」などが学びを続けています。

教室が始まる1時間前には、スタッフが学校の正門に『案内板』をかけます。これまでに一度も学校に通ったことのない人や、学校から切り離れてしまった人が、学校の門をくぐりやすいように「ようこそ」という気持ちがこめられています。

3 夜間中学のこれから「だれでも、いつからでも、学び直せる」

日本は識字率99%といわれますが、歴史的な環境やさまざまな事情で学校教育を受けられず、よみかきに不自由している人がいることはあまり知られていません。

こういった人々に“学びの場”を提供しているのが夜間中学です。

2016（平成28）年12月「教育機会確保法」が成立し、現在では、不登校の生徒の教育機会を確保する観点から、学齢超過者だけでなく、本人の希望を尊重したうえで、学齢生徒（中学生）を夜間中学で受け入れることも可能となっています。また、外国籍の人にも教育を受ける権利を確保することが求められており、この法律に明記されました。



▲福岡千代『よみかき教室』

【参考・引用・出典文献】

人権・同和問題啓発資料 夜間中学—あかりがともる よるのまなびや—
発行：2018（平成30）年10月 公益財団法人福岡県人権啓発情報センター